

「インドネシア・スラカルタ市の障害者支援団体に対する障害児用中古車椅子供与計画」
事業完了報告（写真）

ジャワ島中部のスラカルタ市郊外にある供与先 CBR 開発訓練センター



2012年2月18日、スラカルタ市（通称ソロ市）供与先の講堂に市長代理の議長、福祉団体幹部それにスラカルタ市と8つの県の夫々の福祉責任者と障害児と保護者が各県から2名、ジャカルタからは障害児支援協議会の代表など約75名を招いて引渡式を実施した。また日本大使館からは公使のメッセージをいただき代読した。今回ソロ市と8県の障害児に150台を供与した。



社会省幹部は子ども用車椅子の人道支援事業を行う NGO の活動と日本政府の支援について感謝の意を表明。



式後、ママン理事長・幹部と打合せ、保護者と貸与契約、年1回の追跡調査報告を確約。CBR 開発訓練センターは9県の約 5,000 名以上の障害児データベースに基づいて必要度の高い子どもに車椅子を貸与。CBR センターの物理療法士によるフライング



ガボゲン県後地域障害者自立センターを訪問し当会活動紹介、車椅子を待つ子ども達



当会理事は引き渡し式後各福祉センターへ車椅子を送り、専門家が適合する車椅子を選びジャワ島中央部の各県の村落部で生活する子ども達の家を訪ね、車椅子を届けた。



子どもが家庭訪問時には役場幹部、福祉担当者、ソーシャルワーカー等が同行してくれた。家族の方には「いつもきれいに大切に使って下さい」とお願いしてきた。



農村地帯は自給自足の貧しい生活で、車椅子によって「家族の生活が変わる（主婦が仕事ができる）」「子ども行動が変わる」と家族も子どもも喜んでた。

